

下野市行政改革推進委員会 議事録

- ・ 審議会等名 平成29年度 第6回下野市行政改革推進委員会
- ・ 日 時 平成30年 1月30日（火）午後1時30分から3時00分
- ・ 場 所 下野市役所 2階 203会議室
- ・ 出席委員 杉原弘修会長、伊澤和子委員、大越歌子委員、稲田智秀委員、小島恒夫委員、川上順次郎委員
- ・ 欠席委員 青柳庄一委員、手塚英男委員、百武亘委員、高山幸雄委員
- ・ 市側出席者 広瀬市長、板橋副市長、長総合政策部長、手塚市民生活部長、山中健康福祉部長、高德産業振興部長、石島建設水道部長、星野議会事務局長、坪山教育次長、柏崎会計管理者
(事務局) 谷田貝総合政策課長、古口主幹、猪瀬副主幹
- ・ 公開・非公開の別 (公開 ・ 一部公開 ・ 非公開)
- ・ 傍聴者 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録(概要) 作成年月日 平成30年 2月27日

○次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 議事録署名人の指名
 - (2) 第2・3・4・5回下野市行政改革推進委員会議事録の確認について
 - (3) 平成29年度下野市行政評価市民評価報告書(案)の確定
 - (4) その他
- 4 平成29年度下野市行政評価市民評価報告書の提出
- 5 市長等との意見交換
- 6 閉 会

○開会

(事務局) 平成29年度第6回下野市行政改革推進委員会を開会いたします。

○あいさつ

(杉原会長) 本日の会議では、市民評価報告書の提出と意見交換が予定されておりますので、よろしく願いいたします。

○議事

(1) 議事録署名人の指名

(杉原会長) 今回の議事録署名委員を指名します。本日は、稲田委員・小島委員にお願いいたします。

(2) 第2・3・4・5回下野市行政改革推進委員会議事録の確認について

(杉原会長) それでは、第2回から第5回までの委員会の議事録の確認について、事務局から説明願います。

(事務局) 議事録ですが、事前に委員の皆様へ配付し確認していただきました。ご意見等が無いようであれば、第2回から第5回までの議事録を確定させていただき、会長と署名人の委員に後程署名をお願いしたいと思います。以上です。

(杉原会長) 事務局から説明がありました。各委員より改めて修正意見が無いようであれば、この内容で確定し公表したいと思います。

(3) 平成29年度下野市行政評価市民評価報告書(案)の確定

(杉原会長) 続きまして、報告書(案)についてご審議をいただきたいと思います。それでは、事務局から説明願います。

(事務局) 報告書(案)については、事前に委員の皆様へ配付し確認していただきました。修正については特にございませんでした。本日は、報告書(案)の確定ということでご協議いただきたいと思います。以上です。

(杉原会長) 事前に確認していただいておりますが、その後お気づきの点や改めて加えたいとの申し出がございましたらお願いいたします。無いようですので、報告書については確定といたしまして、市長へ提出することとします。

(4) その他

(杉原会長) 次に、その他について、事務局から何か予定されていたらお願いします

(事務局) 本日の議事録については、この後の報告書提出と意見交換の内容を含めて案を作成し、調整次第、委員へ送付させていただきます。内容等をご確認いただき、訂正等については返信用封筒にてご報告ください。その後、署名人の委員に署名していただき、最後に杉原会長のご署名により議事録を確定させたいと思いますので、よろしくお願いたします。以上です。

(杉原会長) それでは、本日予定された議事は終了いたしました。続きまして、市民評価報告書の提出になりますが、一度進行を事務局に戻させていただきますのでよろしくお願いたします。

(事務局) 2時から市民評価報告書の市長への提出と意見交換となりますので、少々お待ちください。

○平成29年度下野市行政評価市民評価報告書の提出

(事務局) それでは、市民評価報告書の提出になります。杉原会長から市長へ報告書を提出していただきます。

(杉原会長) 平成29年度下野市行政評価市民評価報告書でございます。この報告書は、10名の委員の方々より熱心にご審議いただきました結果でございます。市においては十分ご活用いただき、また、市民へも公表し市民参加の礎としていただきますと、大変ありがたいと思います。よろしくお願いたします。

(広瀬市長) ありがとうございます。

○市長等との意見交換

(事務局) 続きまして、市長等との意見交換となりますが、その前に市長からごあいさつを申し上げます。市長、よろしくお願ひいたします。

(広瀬市長) 改めまして、皆様こんにちは。本日は、第6回下野市行政改革推進委員会ということで、今、杉原会長から市民評価報告書をいただきました。全事業649事業の中から10事業をセレクトしていただき、11月から各事業におけるヒアリングで活発なご議論をいただき、また、今回は委員の改選ということもあり、今までとはまた違った切り口の中からのご意見も多数あったと伺っております。只今、評価をいただいたところですが、10事業のうち1事業について市の内部評価が「妥当である」、9事業について「おおむね妥当である」という好評価をいただきました。市では、ここに記載されました評価やご意見を真摯に受け止め、市政に反映することが非常に大切であり、また、それが市の方向性をしっかりと保っていく大きな指針となると考えております。本日は、委員の皆様から、各事業の内部評価についてのご講評やご意見の交換をさせていただき、「さらなる飛躍へ」という形で進めさせていただけるようお願いをしたいと思いますと考えております。

最後になりますが、この席をお借りいたしまして、市の職員による公金の詐取につきまして、改めてお詫びを申し上げます。この度は、職員があつてはならない不祥事を起こしました。このことは、市民の皆様のご信頼を著しく欠くものであり、また、多くの皆様方にご不興を買う、また、ご迷惑をおかけするという事態に発展をしてしまいました。我々にとりましても、あつてはならないこと、青天の霹靂というところではあるのですが、起り得るはずがないと思ひながらも、今その状況を検証していく段においては、ある意味、起るべくして起こったところがあつたという思ひがしております。今改めてしっかりと検証し、その反省の上に立ち、2度とこういったことを起こさないようなシステムと、また、改めて職員の管理についてもしっかりとしていきたいと考えておるところであります。改めまして、一から市民の皆様のご信頼を築くべく努力をしてまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。本日に申し訳ございませんでした。

(事務局) ありがとうございます。ここから、杉原会長に座長をお願いし、意見交換を行いたいと思ひますので、杉原会長よろしくお願ひいたします。

(杉原会長) それでは、報告書につきましても、その他諸々のことにつきましても、市長や副市長、各部長もお揃いでございますので、皆様から自由にご意見を述べていただき、いろいろと意見交換をしたいと思ひます。

(川上委員) 最近、他県へ行く機会があり、九州にある市ですが、そこで行政の状況を見させていただきました。人口や予算は下野市の約4倍、その中で予算の内容を細かく見ますと、昔からある立派な市ではありますが、地方都市というこ

とで、いわゆる田舎にあって、予算の大部分が農業に割かれている状況でした。こちらも古い町が寄り集まった市であるのですが、施策等がある意味固まってしまっているように見受けられ、この委員会に参加させていただいてる中で比較してみますと、下野市には、これから行政改革する上で、まだまだ市民が参加し、いろいろな形で改革ができる状態にあると私は認識しました。実りのある発展できる市になっていける余地がこの下野市にはあると認識してまいりましたので、市民の声を如何に取り上げるか、職員のアイデアを如何に汲み上げるか、是非ともそういう形で取り組んでいただきたいと思います次第であります。もう1つは、先ほど市長よりお詫びの言葉がありましたが、今回の事件は非常に残念であると感じています。いわゆる横領事件というものは昔からある問題であり、他の自治体や会社・銀行でもあったかと思いますが、昔から何度も起こっている事件であるにもかかわらず、これから発展しようとする我々の下野市において発生してしまいました。その管理体制において、管理する方が今まで何をしていたのかと問われても仕方がなく、また、仕方がないでは済まされないことであります。管理する方が管理できていなかったということでもありますので、これから改革や改善策を練られるのですが、効果あるものをお願いしたいと思います。私はこの委員会で最初にも申し上げましたが、職員の教育において、職員が行政に対して如何に取り組むべきかという基本姿勢をもう一度認識させること、一番熟知している職員の他はほとんど初心者といった状況がないように各課の専門職を育成することが重要であり、補助金を支給するなど職員の実りある教育・研修環境を是非とも充実させて、若い職員を早い時期から育成していくことが大切であると思います。もちろん人事異動はあって然るべきであります。その中においても、すべての職員がその課の専門職となるように育てる教育方針や取組を期待します。最後に教育委員会に関してですが、いじめの問題が下野市には本当に無いのでしょうかといった点について、事件が起こって調べたらたくさん出てきたということが無いように、もう一度原点に立ち戻って是非とも取り組んでいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(広瀬市長) まず、本当にお恥ずかしい話ですが、正直なところ、川上委員がおっしゃられたとおりであります。今回の事件に関しましては、1人に頼り過ぎた、任せ過ぎたということであり、新庁舎に移転してきて新しいシステムを導入したのですが、そのシステムの使い勝手が非常に良すぎた部分もあり、仕事がスムーズに行くようにといった考えもあっただろうし、また、本人からすればやましいことを考えて選択した部分もあるかもしれませんが、そういった部分に目が行き届かなかったということは、返す返す非常に残念であるとしか言えません。そのため、今お話があったようにスペシャリストを作る、内部においてはそこにチェックができる体制を執りながら、また、長期間異動をかけないということではなく、適正なタイミングの中で人事を回していかなくてはならないと思っております。預り金など現金の取扱いのルールにつ

いては相当厳しく作り上げておりましたが、振込操作の中でこういったことが起こるといふこと自体を正直想定していなかったということが、まず最初のつまづきだったということで反省しております。そういった部分で、できる限りしっかりと根本に立ち返りながら、改めてこういったことが起り得ないようなシステムを作り上げるように頑張っていきたいと思っています。また、九州の地方都市との比較をいただいておりますお話について、非常にありがたいお話であると思います。先日、新採用職員の仕事の発表を行いました。これは毎年実施しているものでありますが、自分が所掌する仕事の内容を改めて発表すると同時に、その中で気付いた点というものをしっかりと発表する。また、担当課長がその発表に対するいろいろな状況について我々に向けて発言をする。そういった中で、一つひとつの課の中でも活発な動きが出てきているとの思いがしたこと、もう一つ、本市には未来塾という若手職員の集まりがございます。これは、非常に良い集まりだなと思いますし、我々からしてみますと、当たり前のように自分に縛りをかけてしまっている部分を、タグを外した中で若い職員が試行錯誤し、そして地域・自治体を超えて様々な話をするというこのエネルギー溢れる部分の話を聞いた時に、こういった職員の熱を奪わないように、育てられるような職場にしていかななくてはならないと改めて感じました。下野市職員の不幸事の中での新任職員の発表ですから、君たちの先輩が犯したことで信用は地に落ちている、ただ、悪かったのは我々であり、今後君たちはしっかりと今の状況の中から信頼を勝ち得るように、改めてもう一度頑張りたいとの話をさせていただきましたが、未来塾のような若手職員の活動についてさらに多くの方に知ってもらいながら、また、少しでも若い職員が伸びていくようなシステムを作っていきたいと考えております。

(小島委員) 今日お話ししたい内容を整理してまいりましたので、資料を配付させていただきます。今回初めて行政改革推進委員会に参加させていただいておりますが、量の面についてはご議論がございましたが、質の面では足りないのではないかと感じ、「行政改革推進委員会の運営の疑問点」といった資料を作らせていただきました。第三次下野市行政改革大綱によりますと、基本方針として「さらなる協働の推進」「質的側面の向上」「量的側面の改善」とありますが、平成29年度下野市行政評価市民評価対象10事業の選定における候補事業の条件が事業費額によって縛られています。そうしますと、経費の掛からない部分において行政改革というものが抜けてしまうのではないかと、行政改革推進委員会なのか市民事業評価委員会なのかといった疑問が生じました。費用に係る「量的側面の改善」にはなると思いますが、「さらなる協働の推進」や「質的側面の向上」といったソフトの部分が抜けてしまうのではないかと懸念したわけでございます。そこで、来年度の行政改革推進委員会でも検討していただきたい4項目を挙げさせていただきました。第1に「自治会活動の支援による信頼関係の醸成」ということで、現在は自治会活動に市があまり介在しないようであり、自主的な活動に任せているということによ

うが、もう少し市が介入しても良いのではないかと感じております。2つ目が、今問題となっております「人づくり・人材育成」ということで、国も人づくり革命ということで動き出しており、下野市でもプロフェッショナルな行政マンということでスキルアップしているとは思いますが、下野市人材育成基本方針は5年ごとに改訂されてございますが、非常に理念的であり、もう少し具体的に示すべきではないかと思うことから、必要とされる資格の名称や研修内容等についてももう少し具体的に示した方が良いのではないかと考えました。3つ目は「適正な行政運営・見える化」ということで、今回制定された「下野市審議会等の設置及び運営等に関する要綱」により議事録の作成や公表等について明確化され、その後に公表された委員会等の議事録を見ますと、今年度かなり努力されているようですが、まだ不十分な印象を持ちました。議事録等をオープンにすることが、市民の信頼を獲得することにつながりますし、そのことを十分理解し対応していただきたいと思っております。4つ目として「自治医科大学との連携と超高齢社会の理解」ですが、高齢化率が23%を超えている状況において、自治医科大学の利活用も必要ではないかと考えます。実際には、高齢福祉課が共同事業により、数自治会を対象に生活支援体制整備事業に係る生活実態把握調査をお願いしております。また、健康増進課でも、「健康しもつけ21プラン」策定において自治医科大学看護学部長にご指導いただいております。こういう事実もありますので、さらに密な関係を持った方が良いのではないかと、自治医科大学と下野市がWINWINな関係を築くべきであると考えております。以上のとおり、私の考えでは、こうした質的な面が足らなかったのではないかと感じております。次の資料では推薦する図書5冊を記載しており、私が活動しております「男の広場」での1月の月例会の資料であります。2018年の年頭にあたりまして、マスコミ等でも人生100年時代と言われておりますが、その中でイギリス人の知恵を借りようということで国は進めております。ご存じのとおり、安倍政権の「人づくり革命」において、「人生100年時代構想会議」の有識者議員の1人としてリンダ・グラットン氏を起用しました。外国人は1人です。この方は、数年前にも「ワーク・シフト」を執筆し、非常に評判になったこともあり、「ワーク・シフト」における働き方改革と「ライフ・シフト」における人づくり革命ということで国は動いておりますが、理念的にはこの2冊の本を読むべきであると思っております。3冊目の「第三の波」は38年も前のアルビン・トフラーの本ですが、情報化文明の中で、日本が遅れてしまったのではなかろうか、今世界を席卷しているアップルやグーグルなどがありますが、2017年度世界時価総額ランキングでほとんどがアメリカや中国の企業であり、日本企業はトップのトヨタであっても40位となっており、何か違ってしまったのではないかと感じます。4冊目は「不安な個人、立ちすくむ国家」であります。これは150万ダウンロードされ、特に65ページのレポートは皆様に読んでいただきたいと思っております。経済産業省の若手官僚によるもので、高齢者は一律弱者であるといった考えでは日本は潰れてし

まうのではないか、働ける間は働いてもらうといった内容であり、社会に貢献できる方が高齢者にとっても幸せなのではないかと思います。30代の官僚たちなので、子どもや教育への投資を財政における最優先課題とするべきだともあり、シルバー民主主義により社会保障費関係の費用が高齢層に偏る状況も改善されるべきであるとしています。また、公の課題をすべて官が担うのではなく、意欲と能力がある民間人も担い手となるべきであるとしています。ここで謝らなくてはならないことは、本日出席の委員が6人しかおらず、市民力も問題であり、反省しなくてはならない点であると思います。行政だけでなく、我々市民においても、市民力アップが必要であると考えます。5冊目の「人生100年時代の国家戦略」は、小泉進次郎議員が非常に活躍されているということで自民党の若手国会議員が立ち上げた小泉小委員会の中で、子ども保険構想を提言したとありました。高齢者ばかりに焦点が行っていましたが、安倍政権ではいつの間にか全世代型社会保障といった話になっており、これは、小泉小委員会の影響ではないかと言われております。この5冊については、これからの行政運営においても非常に参考となると思いますし、先ほど市長がおっしゃられた職員のスキルアップにも通じると考えます。閉塞感漂う日本で激増する我々高齢者世代ができることはないかと自問してみた時に、ニッセイ基礎研究所が提案している「おとな学校・高齢者のための義務教育課程」における定年後2年間の義務教育が大変参考となり、100年時代においては、ただ放置しているだけではなく、義務教育できちんと教えることが必要であり、高齢者が学び、現役世代が学ばなければ、世界の潮流から取り残された日本になってしまうと考えました。未来に生きる孫たちの為にも、まず高齢者が学ぶ姿を見せることが必要であると、男の広場では新年にあたり思いを新たにしたいわけでございます。参考になればと思います。

(広瀬市長) 行政改革推進委員会で検討したいとありました4項目については、こういった部分に目を当てていただき本当にありがたいと思う案件であります。自治会について我々も正直に言いますと、自治会加入といったことに対しては何となくアンタッチャブル的な感じがあり、果たしてそれで良いのかといった思いもあるのですが、今のご時世こういう時代だからと言われてればその通りですが、やる気を持って動いていただいている会長が大半であると思いますので、その方々と様々な意見交換をしながら動いていければ、もっともっと変わっていくのではないのかという思いがします。この中で唯一「自治医科大学との連携」については本当に難しいと感じております。学長は様々な話をしてくださるグローバルな視点をお持ちの方であり、委員長・副委員長といったパターンでの個人的な付き合いはあるのですが、これが大学といった形になりますと、特に自治医科大学は全国の都道府県が共同して設立した大学であって、どのようにこの行政との連携を進めていけたら良いのかと考えますと、看護学部長等との個人個人との系統が中心になってしまうのではないかと思いますし、そういった部分を大切にしながら、そこから広げていけ

たら良いのではないかと考えております。一番の肝といったところは、最初に言われたように、10事業の選定にあたり、ハード事業で2千万円、ソフト事業で5百万円といった部分からだけでなく、事業費のかからない事業においても行政改革をとりましたが、本来我々が一番大切にしなければならぬところでもありますので、そういったところにも気を配っていただけるということは非常にありがたく思いますし、また、我々の方でも是非見て欲しいといった部分を多く作れるようにしていきたいと思っております。

(小島委員) 今、生活支援コーディネーターの活動の中で、自治医科大学との連携により地元4自治会でアンケートをお願いしておりますが、そこで自治会から言われたことは、こういうきっかけが欲しかったということです。元気ハツラツ体操ということで公民館に人が集まり、その中でこれからの自治会をどうしようかとみんなで考えるきっかけになったということでした。極端に言えば、そういった動きが市の方から無かったということです。今回、生活支援体制整備事業の中で、きっかけを与えてくれたという意見があり、意外と市民の方は待っているとの印象を持ちました。自治会は自主的に活動するものであり、行政としてある程度の距離感を持つといったことではなく、市民の方で待っておりますので、市といった信頼できる大きな組織ですから、そこに踏み込んでいくことで何か変化が起こるということがあるのではないのでしょうか。また、自治医科大学から先生や学生が来たということで、信頼感が見られました。そういったことから、そこに自治医科大学があることが下野市の大きな宝ではないかと感じましたし、そこを最大限に利用すれば、様々な可能性があるのではないかと思います。正面からではなく、学生などから間口を開いていけば良いのではないのでしょうか。向こうでもそういったフィールドワークを実施したいと言っており、また、せっかく下野市にある自治医科大学でありますので、お互いにWINWINとなる可能性は大きく、その切り口として超高齢社会に関するところから実施すべきと考えます。

(山中健康福祉部長) 自治医科大学との連携はなかなか難しい部分もございますが、連携とまではいきませんが、コホート研究追跡事業ということで10年間における個人の健康状態を調査する事業への協力など、いろいろと細かいところでの連携は取れております。ただ、大きなところでの連携はこれからでありますので、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

(広瀬市長) 学生との連携が有効ではないかと思います。

(小島委員) 学生が大きな模造紙におしゃれで分かりやすい資料を作成するなど、非常に真剣に対応していただいております、それが下野市にあるのですから、本当に協力していきべきだなと感じました。

(川上委員) 何をやって欲しいかではなく、何が協力できるかということではないでしょうか。協力できるものはないかといった観点から探っていくことで、結局相手がやろうとしていることが引き出せますし、それこそ学生の論文など何でも良いと思いますが、それに協力することでのつながりも大切ではないかと思っております。正面切って行ったのではそれぞれ建前というものが動いてきます

から、学生たちに何をやってあげられるかということも含めまして、若い職員でも良いと思いますので、そういったところからつながりを持つなど、相手の動きを引き出すところから、連携を是非お願いしたいと思います。

(広瀬市長) 逆に、私たちが自分で敷居を高くしてしまっているのかもしれませんが。薬師祭の時にいつも考えることがあり、これだけの若い力があるのであれば、これを何かに活用させていただけないかという思いがしています。

(小島委員) 薬師祭には、私もしもつけ大人塾で3年間参加しましたが、学生のあのエネルギーはすごいものです。そこに総合政策課や高齢福祉課などでブースを借りて参加するなど、お互いの歩み寄りが必要なのではないかと思います。

(杉原会長) それでは、他の委員にもご意見をいただきたいと思います。

(稲田委員) 今回初めてこの行政改革推進委員会に参加させていただきまして、私は下野市に赴任しまして僅か1年半ぐらいの段階であり、このような場で意見できる立場でもないのですが、いろいろと市の事業について勉強させていただいたのかなということが、率直な感想であります。商売柄いろいろなお客様と接する機会がありますが、皆様は下野市にお住まいであり、地元を良くしようという考えをもちろんお持ちになられていらっしゃると思います。ただ、中には、残念ながら、私は国分寺だから、石橋だからといった考え方がまだまだ根強いのが実情ではないかと思います。しかし、若い方の中には、下野市全体を見て、どうにか下野市を盛り上げようとする方も数多くいらっしゃいますので、是非そういった若い方の意見をこういった委員会にも取り入れていただけたら良いのではないかと考えております。実際、委員に年齢制限はないと思いますので、選出できるのであれば20代・30代・40代からも一人ずつ選出し、若い方の意見も取り入れられるように、そのような委員構成にさせていただければ、もっといろいろな意見が出てくるのではないのでしょうか。事業について議論していく中で、下野市の場合、3町合併後10年を超えていますが、対等合併ということでその辺の難しさがあるのかなと思いました。吸収合併であれば大きな市が周りの町村を主導的に様々な部分を回せるのかなと思いますが、対等合併ということで、その調整については非常に難しいと思いますし、これは時間が解決してくれることかも知れませんが、その時間を如何に早めていくかということが重要であると思いますので、その辺のスピード感と、下野市はまだ若いまちでありますから、若い方の意見を是非取り入れていただいて、より良い市にさせていただけたら良いのではないかと思いますので、一つよろしく願いいたします。

(大越委員) 市政全般におけるこういった委員は初めてであり、まず感じたことが、委員の意見が非常に鋭いということで、とても感心させられました。市では、是非そういった意見について参考としていただき、また、追及していただけたら良いと思いました。

(伊澤委員) 誠に申し訳ございませんが、普段から市政に対してあまり関心がなく、普通に暮らしておりましたので、こういった高いハードルの問題を出されるとなかなかついていくことが困難であるのが実情でした。皆様のたくさんの意見

を伺う中で、また、市の回答を伺っている中で、皆様が大変一生懸命であるという熱意がひしひしと伝わってきましたので、少しは私自身も市政の方に目を向けていきたいと反省しているところです。商売柄、若いお母様方と接する機会が多く、小中一貫教育のお話が出ておりますが、ご父兄の皆様が戸惑っているように思うのです。これからの子どもたちの未来に関わることで、もう少しご父兄の皆様とのコミュニケーションなどを密にさせていただき、不安を取り除いていただければと思います。今、私が特に気に掛けていることでもありますので、よろしく願いいたします。

(坪山教育次長) ご意見、大変ありがとうございます。これから南河内中学校区で義務教育学校を作っていく中で、地元の方にいろいろとご説明しながら進めているところでありますが、ご意見のとおり、説明が足りない部分もあったかと思われま。今後はさらに地元の方に入っていくことで、地元の方やご父兄の方にご説明しながら、ご理解いただきながら進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(広瀬市長) 本来、今頃こんなことを言っているはいけないことです。今日の午前中に教育会議があり、今までは教育の政治的中立性ということで、あまり教育委員会の話には口を挟まず、ハード面の設置者としての部分のみでありました。今度は、教育委員の皆様といろいろな意見の交換ができるようになりましたので、教育会議では、やはり小中一貫教育について、今回は特に国分寺西小学校と国分寺小学校との再編が間近ということで、そこが中心ではありましたが、根幹のところ、教育委員の皆様で話していることは、小中一貫教育にしてどのように変わっていくのかということ。子どもたちがどのように変わって、また、家族が小中一貫教育になったことで変わったものが見えないと、何のための小中一貫教育か分からないだろうということになりますので、そここのところできちんと分かるような形を取っていかうという話を、今日、熱く議論しておりました。特に今回の場合は、国分寺地区の再編化ということで、子どもが学校に行った時に馴染めるのかといったことが、ご家族にとって第一の心配だったとありました。学校同士での行き来によるいろいろな授業を行っていますので、その部分は既に緩和され良い状況になっておりますが、ある教育委員から、国分寺地区の同年代の方々の親は中学生の時に同じ中学校に通っていたのだから、子どもがいっしょになるとはいえ結構話が合うのではないかとのお話があったこと、国分寺西小学校の子どもたちが、こうやってみんなでドッジボールをやったかったとあったことがやはり印象深かったです。南河内中学校区については、吉田西小学校・吉田東小学校・薬師寺小学校の3校がいっしょになっての義務教育学校ということで、さらに多くのいろいろな話をしないときっと不安な部分が多いと思いますので、丁寧な対応ができるように、また、本当に子どもたちが変わったなと思ってもらえるような、そしてご家族にも喜んでいただけるような、そういった動きをしていけたらと思っています。段々議論が熱くなってきておりますので、本当はもっと熱いものが皆様の方に伝わっていただければならなかつ

たのですが、遅ればせながら動きが出てきました。確実に進めていきますので、動きが遅いところもあるかもしれませんが、いろいろ情報交換をしながらやっていきます。

(伊澤委員) なぜ小中一貫教育にするのかといった根本的なことが、また、3つの小学校が一つになることでのメリット・デメリット等がご父兄の皆様にもまったく伝わっていないと、お話を伺っていて思うところがありましたので、よろしくお願ひいたします。

(杉原会長) ありがとうございます。そろそろお時間となりますが、もう一度、市長に提出しました市民評価報告書をご覧くださいますと、表題に「市民」というワードがございます。そして、1頁の前書きのところでも、「市民」という言葉が10回出てまいりまして、一番数の多いワードは「市民」となっております。この報告書の真の本当のねらいは、「市民との協働」ということであると、私は考えております。この委員会が始まる前に、内容は問いませんので、委員の皆様には必ず発言をしていただくことを約束していただきました。そのねらいは、ある程度達成したと思います。これは、先ほど小島委員より丁寧な論文もいただきましたが、その量の部分は発言回数で達成できますが、質の面では達成できません。やはり、発言の内容が問われるわけでありまして、そこで、質の面においては、この報告書の6頁以降に皆様方の意見を細部にわたって記載してございます。これはそのまま委員の「発言の質」を表すものでございますので、職員の方々全員によく目を通していただきたいということをお願いしまして、意見交換を終了させていただきたいと思ひます。長時間ありがとうございます。また、来季もありますので、よろしくお願ひいたします。最後に、先ほど小島委員より、委員の出席に関して不十分な面を感じるとのご指摘がございましたが、まったくそのとおりであると思ひます。その意味でも、この報告書をより良いものにするために、来季はしっかりとした報告書のデザインを固めた上で、委員会を開催できればと考えております。事務局と相談の上、この委員会のグランドデザインをしっかりと固めておきたいと、また、お知恵をいただきたいと思ひます。本日は、どうもありがとうございます。

○閉会

(事務局) 以上をもちまして、平成29年度第6回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。今年度は6回にわたり活発な委員会の中でご協議等いただき、改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員